

1 学校経営計画
別紙のとおり。

2 自己評価

領域	重点目標・具体的取組	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	<p>①生徒と教職員の新型コロナウイルス感染症感染防止に最大限努めながら、生徒の学習と学校生活の充実を図るとともに保護者への公開を進める。</p> <p>②企業、大学、竹早地区教員による「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」の成果を可能なところから取り入れていく。</p> <p>③オンラインでの情報発信を充実させ、本校の特色や研究成果を的確に発信する。</p> <p>④働き方に関する問題意識を高め、具体的な対応を検討するとともに、研究に意欲の持てる環境作りに努める。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の五類移行を受けて、感染防止に留意しつつ、授業及び学校行事をほぼコロナ前の水準で実施することができた。</p> <p>②「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」の第2ステージとして、プロジェクトに参加するチームを拡充し、外部との連携、誰一人取り残さない学びの保障、教育におけるDX (digital transformation) を柱に、本プロジェクトを一層発展させた。その成果の第一弾が、2024年1月20日開催の公開研究会で発表され、第二弾として、研究紀要において、幼・小・中の教員が教育実践と研究の成果を発表した。</p> <p>③オフィシャル・サイト(ホームページ)を全面リニューアルし、コンテンツを充実させるとともに、情報発信のためのプラットフォームを整えた。</p> <p>④生徒の出欠管理ソフトの導入及び部活の日数を週3日から2日への削減を行い、教員の過重労働の抑制を図った。また、後期よりスクールサポートスタッフ (SSS) が配置され、校務の支援に大きく寄与している。</p>	B	<p>①引き続き感染対策に留意しつつ、授業及び学校行事を充実させていく。</p> <p>②成果を本校の教育に生かすとともに、郊外へも発信していき教育界に貢献する。</p> <p>③保護者からの要望に応えるとともに、受験生を増やすためにも、オフィシャルサイトのコンテンツを随時更新し、本校の教育・研究について情報発信していく。</p> <p>④部活動の精選や校務の効率化を図り、今日勝因の仕事の負担や勤務時間の適性化を進めていく。</p>	<p>(1) いじめ防止 他者を思いやる心、他者の立場に立ってものを考える力、鋭敏な人権感覚、いじめに立ち向かう勇氣などを一層高めていく必要がある。</p> <p>(2) ホームページのコンテンツを充実させ、教員のすぐれた教育実践や研究の成果、生徒の優れた活動などを積極的に発信していく必要がある。</p> <p>(3) 教員が指導熱心であるがゆえに、働き方改革が十分に進んでいない。部活の精選、入試の外注化等、実効性のある改革が必要である。生徒指導面でも、学校ができることとできないことを明確化する必要がある。また、SSSによる校務支援が引き続き必要である。</p>

	<p>⑤生徒が教員を信頼して相談し、指導を受けることができる関係性の構築をより一層確かなものにし、保護者と学校とのより良い信頼関係を構築する。</p> <p>⑥生徒一人一人の状況を見取り、変化を示すわずかなサインを見逃さないように努める。</p> <p>⑦いじめを起こさないような体制作りを行い、いじめが起こった場合には学校全体で対応し、指導する。</p>	<p>⑤学級担任と生徒との面談を中心に、問題が起こった時には学年の教員が協力して対応に当たった。必要に応じて管理職、指導部、養護教諭、SC、SSWとの協力態勢を作るなど、生徒の状況に迅速に対応する体制は基本的にできている。保護者との信頼関係は基本的にはできているが、学校の様子を直接見る場が限られており、個別の案件で丁寧な対応が求められている。</p> <p>⑥運営委員会を中心に教員間の連携をとる体制作りを進めてきた。特別に支援を必要とする生徒についての理解や情報共有も進んだ。</p> <p>⑦いじめや、いじめが疑われる事案が起こった場合には、すぐに教員及び管理職で情報を共有し、即応する体制ができ、機能している。</p>		<p>⑤生徒の些細な変化の見取りと共有化を一層進める。近年、児童相談所や子ども家庭支援センター関係の案件が増えており、組織間での情報共有や連携の進め方が複雑化している。必要に応じてSSWやスクールロイヤーのアドバイスを受けつつ、個別の対応を進める。</p> <p>⑦特別な支援を必要とする場合や、家庭の困難な状況を抱えている場合の多職種連携のチームによる生徒指導について、教員が学べる場を作る。</p> <p>⑦生徒観察を丁寧に行うとともに、加害者側に同調しない、被害者を守る生徒、生徒集団を育成するための指導をさらに充実させる。</p>	
<p>教育活動</p>	<p>①幼小中連携教育の一層の充実のもとに、他者への理解を深め、多様性を尊重し、互いを高め合う姿勢を育む教育の実践を目指す。</p> <p>②さまざまなことに興味を持ち、主体的に学ぶ態度を育成する。</p> <p>③主体的に判断行動し、自己を律する力を育成する。</p> <p>④運動会、文化研究発表会、合唱コンクールの行事等において集団で協力して作品を作り出す喜びを</p>	<p>①本校で重点的に取り組んだ多様性の教育の研究成果に基づき、教科教育に加えて道徳などにおいて、他者理解や多様性の尊重を学ぶ特徴ある授業を進めた。</p> <p>②連携研究の成果を生かした主体性を育む授業を進めた。また、生徒の希望に基づくDプロジェクトを実施した。</p> <p>③再開された集団活動や学校行事の主体的な運営が実践できた。</p> <p>④運動会、文化研究発表会、合唱コンクールの行事等において、コロナ禍の制限を解除し、生</p>	<p>A</p>	<p>①幼小中連携教育研究の成果を教科教育及び生徒指導に生かしていく。</p> <p>②Dプロジェクトの継続発展に努める。</p> <p>③引き続き、生徒たちの意見交換や議論ができるような場を確保するよう努める。</p> <p>④一つ一つの行動の意味を理解させ、指導を継続していく。</p>	<p>(1) 働き方改革の観点から、部活動の精選が課題である。</p> <p>(2) 生徒によるタブレットの不適切使用の例があとを絶たない。家庭での指導を含めた対応が必要である。</p> <p>(3) 生徒は広い範囲の地域に居住しているので、地域の方々とともに生活している意識を育むことが課題である</p>

<p>体験させ、他者との協調、関わりを持てる生徒を育てる。</p> <p>⑤日常生活の基本的な生活習慣および感染症感染防止の基本的な習慣を身につけさせる。</p> <p>⑥公共心や奉仕的態度を育成する。</p> <p>⑦総合的学習（自由研究・卒業研究）を通して継続して考察し、探究する態度を養う。</p> <p>⑧部活動・委員会活動を通して生徒の思考力・判断力を高める。</p> <p>⑨運動会、文化研究発表会、合唱コンクールの行事等において集団で協力して作品を作り出す喜びを体験させ、他者との協調、関わりを持てる生徒を育てる。</p> <p>⑩進路を人生と向き合うことの一つと捉えさせ、各学年における進路指導を適切に行う。</p> <p>⑪地域の方々と共に生活している意識を育む。</p> <p>⑫GIGA端末について使い方に気を付けて活用を進める。</p>	<p>徒が協力して準備・運営し成果を挙げることができた。</p> <p>⑤コロナの五類移行を受け、感染防止に留意しつつ、学校教育本来の姿である「ともに学ぶ」環境を再び実現できた。</p> <p>⑥登下校時の行動の仕方についてのクレームが届くことがあった。年間を通じて継続的に指導を行った。</p> <p>⑦多くの生徒が時間をかけてじっくりと研究に取り組み、質の高い内容を文化研究発表会で発表できた。</p> <p>⑧多くの生徒が熱心に取り組んだ。</p> <p>⑨運動会は規模を縮小したが3学年全員で実施、文化研究発表会も展示を中心にフルに行い、合唱コンクールも実施できた。生徒たちの自主的な運営も見られた。</p> <p>⑩各学年の段階に応じた進路指導を実施した。特に3年次においては一人一人にきめ細かな進路指導を行い、全員の卒業後の進路を確定することができた。</p> <p>⑪コロナ禍において中断していた周辺5町会長との連絡協議会を再開し、意見交換をすることができた。</p> <p>⑫授業や様々な活動において有効に使われているが、休み時間中の使い方などに注意が必要である。GIGA端末の不適切使用の事例が発生した。</p>	<p>徒が協力して準備・運営し成果を挙げることができた。</p> <p>⑤安全衛生に留意した生活習慣を身につけさせつつ、対話的な学びを実現していく。</p> <p>⑥登下校時のマナーについて継続的指導を行う。</p> <p>⑦引き続ききめ細かい個別指導を行っていく。</p> <p>⑧引き続き教育的意義を踏まえた指導を行っていく。</p> <p>⑨運動会、文化研究発表会ともに、感染防止に努めつつ、生徒全体で取り組めるよう開催形態などを工夫するとともに、保護者への公開を進める。</p> <p>⑩「未来の学校みんなで創ろう。プロジェクト」の成果も生かして丁寧に指導する。</p> <p>⑪音の問題や登下校時のマナーなどは周辺町会長の理解は得ているが、意見交換の場を設けていく。</p> <p>⑫SNSの使用法などを保護者と協力して改善していく必要がある。</p>	
--	---	---	--

<p>研究活動</p>	<p>①幼少中連携教育・研究について、「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」の成果を引き継ぎつつ、新たな幼小中連携研究の研究主題を決めるとともに、公開研究会を開催する。</p> <p>②多様性の研究の成果に基づく実践を深めるとともに、それを引き継ぐ新たな学校研究の枠組みを構築する。</p>	<p>「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」の第2ステージとして、プロジェクトに参加するチームを拡充し、外部との連携、誰一人取り残さない学びの保障、教育におけるDX (digital transformation) を柱に、本プロジェクトを一層発展させた。その成果の第一弾が、2024年1月20日開催の公開研究会で発表され、第二弾として、研究紀要において、幼・小・中の教員が教育実践と研究の成果を発表した。</p> <p>②未来の学校プロジェクトや多様性の研究の成果を引き継いで生徒の夢を実現させるDプロジェクトを継続して実施した。</p>	<p>A</p>	<p>①「未来の学校みんなで創ろう。プロジェクト」第2ステージにおいて、特別教室のリニューアルなど、その実装化を進めていき、授業実践などに生かしていく。</p> <p>②研究成果を書籍化して発信していく。</p>	<p>(1) 多様性の研究の成果に基づく実践を深めるとともに、実践研究の成果を発信することが課題である。</p> <p>(2) 教育インキュベーションセンターとの連携のもと、長期研修制度の令和7年度実施に向けて検討を進めていきたい。</p>
<p>学生の教育・支援活動</p>	<p>①学生が教育実習の経験の中で、自身の教職志向や適性を高めていけるような指導を実施する。</p> <p>②教科に関する知識理解の徹底と実践的能力の向上を目指す。</p> <p>③生徒が主体的に参加することができる授業実践のための的確な事前事後の指導を行う。</p> <p>④現在の教育現場の諸問題に適応できるような指導を行う。</p>	<p>①コロナ禍で制限されていた生徒と接触できる場面が増え、自らの適性の判断に資することができた。</p> <p>②中学校の教科指導における知識理解が充分ではない者も、授業実践を重ねることで、教材研究で知識を深め、指導法における能力の獲得に向けた取り組みが行われた。</p> <p>③事前事後の授業考察を通して、ポイントとなる箇所を改めて討論し、各自が提案するなどの前向きな姿が見られた。</p> <p>④学級経営については、課題を出して実習生に議論させる場を設けた。</p>	<p>A</p>	<p>①教科指導だけでなく生徒指導等の体験も積ませる。</p> <p>②教材研究の意義を事前に実習生に指導するとともに、実習中の学習密度を上げる工夫をする。</p> <p>③実習生同士で積極的に討論を行い、互いに高めあうような環境を作る。</p> <p>④学級経営について、実習生同士で考えさせたり担当教員の話聞くことで、現場感覚を持ってもらうよう努める。</p>	<p>指導に熱心なあまり、勤務時間を超過した指導が行われたり、学生によっては負担を感じるケースがあった。個々の学生に応じた指導を強化していきたい。</p>

	<p>⑤実習生と共に討論し考察して教科及び学習に関する考察と理解を深化させる。</p> <p>⑥実践の記録，調査，分析，生徒指導のあり方など基本的な指導に関する情報の提供を行う。</p> <p>⑦授業の目的とその効果的な手段の工夫のあり方を検討する。</p>	<p>⑤授業後には実習生全員で授業考察を行うなど，成果や問題点を共有化し，次に繋げる試みが導き出せた。</p> <p>⑥授業の後での授業者としてのふり返しを行い，また教科内で実習生と教科教員で成果と課題を共有し，情報交換や助言を行う機会を確保した。オンラインの実習ノートが有効であった。</p> <p>⑦指導案の作成指導を丁寧に行い，実習生もそれに応じて工夫を行った。</p>		<p>⑤実習生同士の討論の場を作るように努める。</p> <p>⑥授業者の実践を実習生同士が共有できるように努める。</p> <p>⑦丁寧な指導案作りを徹底させる。</p>	
社会 貢献 活動	<p>①「地域のモデル校」「地域の研究拠点校」としての役割を果たしていく。文京区合同校園長会に出席するとともに，文京区教育研究会を通じた相互交流を実施し，地域の中学校に貢献する。</p> <p>②全国組織の学会，研究会に所属し，実践研究活動を行う。</p> <p>③教科書・教材の編集，執筆を通して中学校の教育に貢献する。</p> <p>④国際交流活動等へ積極的に参加する。</p>	<p>①文京区合同校園長会に原則として毎月出席し，文京区の情報を得た。また，文京区教育研究会とは残念ながら交流の機会が限られた。</p> <p>②学会発表及び学会誌での論文発表のほか，委員や研修講師の委嘱で外部機関に協力した。</p> <p>③複数の教員が教科書の編集や執筆に関わった。</p> <p>④国際学会への参加があったが，国際交流活動は行えなかった。</p>	B	<p>①引き続き文京区の合同校園長会，指導部協議会，文京区教育研究会などに参加し，情報収集を行うとともに地域連携の芽を作るように努める。</p> <p>②研究活動やその成果発表が行いやすい，また，外部からの講師や委員の委嘱を受けやすい環境を整える。</p> <p>③多くの教員が関わるができるように環境整備に努める。</p> <p>④積極的な交流のできる環境やインセンティブを整える。</p>	<p>(1)「地域のモデル校」「地域の研究拠点校」としての役割を果たしていくことが課題である。</p> <p>(2) 国際交流活動等へ参加を検討していく必要がある。</p>

3 その他特記事項

- (1) 本校では，特別な支援を要する生徒や，家庭環境の問題などで外部機関と連携して対応に当たっていく必要のある生徒が多い。いわゆる「児相案件」も頻繁に発生している。それらに伴い，教員の負担も増大している。教員の負担軽減を図りつつ，支援を強化する体制づくりが必要である。
- (2) 施設・設備の老朽化で大規模修繕を必要とするケースが目立ってきた。ここ数年で，体育館の床改修to
プールの修繕を行い，令和6年度には下校庭のリニューアルを実施予定であるが，いずれも必要な予算措置が講じられず，後援会等からの寄付に頼らざるを得ない状態が続いている。大学の財務状況も厳しい中，①不動産を活用して収入を得る（附属高校の敷地内施設の事例がある），②施設を外部組織に使ってもらう代わりに整備費を出してもらう（附属小金井中学校のグラウンド

の事例がある) など, 新たな枠組みの導入も検討する必要がある。

- (3) 体育館の空調整備が喫緊の課題である。夏の高温の中で, 屋外や冷房のない体育館での運動や行事は, 生徒や教職員の命にもかかわる危険を伴う。設備整備自体の負担とランニングコストの問題があるが, これらを解決して施設整備をすることが急務である。

4 自己評価委員会 開催 2024年4月19日

